



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年10月29日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 マンダム

コード番号 4917 URL <https://www.mandom.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 西村 元延

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務部長 (氏名) 澤田 正典 TEL 06-6767-5001

四半期報告書提出予定日 2019年11月8日 配当支払開始予定日 2019年12月2日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	44,439	1.3	4,628	△30.2	5,107	△28.7	3,276	△32.4
2019年3月期第2四半期	43,882	△0.8	6,632	7.4	7,165	8.1	4,845	11.2

（注）包括利益 2020年3月期第2四半期 2,711百万円（△39.2%） 2019年3月期第2四半期 4,462百万円（△16.3%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	71.05	—
2019年3月期第2四半期	103.62	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	90,757	72,767	73.8
2019年3月期	93,402	75,810	74.9

（参考）自己資本 2020年3月期第2四半期 66,941百万円 2019年3月期 70,000百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
2020年3月期	—	31.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	31.00	62.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	85,000	7.6	7,860	10.2	8,690	6.5	5,620	10.5	124.67

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	48,269,212株	2019年3月期	48,269,212株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	3,189,318株	2019年3月期	1,483,926株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	46,112,373株	2019年3月期2Q	46,761,077株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界経済の不確実性等による先行き不透明な状況の中、企業収益や雇用・所得環境は底堅さを維持し、全体の景況感も底堅く推移いたしました。当社海外グループの事業エリアであるアジア経済も、先行きの不確実性等ある中、景気は若干減速しつつも安定した推移を続けました。

このような経済状況のもと、当社グループは持続的な成長の実現に向け、「コア事業である男性事業の維持・拡大」「女性分野のさらなる強化」「インドネシアを中核にした海外事業の強化」に取り組みました。

当第2四半期の連結売上高は、44,439百万円(前年同期比1.3%増)となりました。主として、国内が減収であったものの、海外子会社が概ね好調に推移したことによるものであります。

営業利益は、4,628百万円(同30.2%減)となりました。これは主として、国内の減収や販売費及び一般管理費の増加によるものであります。その結果、経常利益は5,107百万円(同28.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,276百万円(同32.4%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。(売上高は外部顧客への売上高を記載しております。)

日本における売上高は26,648百万円(同7.1%減)となりました。これは主として、男性事業の「ギャツビー」ブランドにおける天候不順に伴う夏シーズン品の苦戦と、インバウンド需要の落ち込みによる女性事業の「ピフェスタ」ブランドと「バリアリペア」ブランドの減収によるものであります。利益面においては、主として売上拡大を目指したマーケティング費用(販売促進費・広告宣伝費)の投下と、減収の影響により、営業利益は3,034百万円(同37.3%減)となりました。

インドネシアにおける売上高は8,795百万円(同2.8%増)となりました。これは主として、円高による円換算額の減少があったものの、インドネシア国内の売上が堅調に推移したことによるものであります。利益面においては、マーケティング費用(広告宣伝費)の投下と一般管理費の増加により、営業利益は294百万円(同51.1%減)となりました。

海外その他における売上高は8,995百万円(同35.5%増)となりました。これは主として、各社概ね好調に推移したことと、前連結会計年度末より連結対象に加えたACGI社の業績が寄与したことによるものであります。利益面においては、主として増収効果により、営業利益は1,300百万円(同8.9%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、現金及び預金が減少したこと等により90,757百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,644百万円減少いたしました。負債合計は、未払法人税等や賞与引当金が増加したこと等により17,990百万円となり、前連結会計年度末に比べ398百万円増加いたしました。また、純資産合計は、自己株式を取得したこと等により72,767百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,042百万円減少し、自己資本比率は73.8%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ5,890百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末には16,889百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動の結果得られた資金は5,800百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益5,198百万円および減価償却費2,118百万円などによる増加と、法人税等の支払額1,282百万円および未払金の減少額799百万円などによる減少であります。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動の結果使用した資金は5,403百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出4,652百万円および無形固定資産の取得による支出574百万円などによる減少であります。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動の結果使用した資金は6,241百万円となりました。これは主に、自己株式の取得による支出4,455百万円および配当金の支払額1,403百万円などによる減少であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2019年5月14日に公表いたしました連結業績予想の変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,341	20,694
受取手形及び売掛金	11,770	11,151
商品及び製品	10,028	9,514
仕掛品	479	537
原材料及び貯蔵品	3,009	3,631
その他	1,318	1,525
貸倒引当金	△21	△24
流動資産合計	52,926	47,030
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,012	9,770
その他（純額）	8,128	12,484
有形固定資産合計	18,140	22,255
無形固定資産	8,630	8,555
投資その他の資産		
投資有価証券	12,147	11,818
その他	1,567	1,110
貸倒引当金	△11	△11
投資その他の資産合計	13,704	12,916
固定資産合計	40,475	43,727
資産合計	93,402	90,757

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,110	2,010
短期借入金	105	63
未払法人税等	1,119	1,532
賞与引当金	958	1,269
その他の引当金	437	252
その他	7,053	6,994
流動負債合計	11,784	12,122
固定負債		
退職給付に係る負債	2,179	2,242
その他	3,628	3,625
固定負債合計	5,808	5,868
負債合計	17,592	17,990
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,394	11,394
資本剰余金	11,016	11,013
利益剰余金	50,037	52,141
自己株式	△1,828	△6,281
株主資本合計	70,620	68,269
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,407	5,121
為替換算調整勘定	△5,878	△6,312
退職給付に係る調整累計額	△148	△136
その他の包括利益累計額合計	△620	△1,327
非支配株主持分	5,809	5,825
純資産合計	75,810	72,767
負債純資産合計	93,402	90,757

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	43,882	44,439
売上原価	20,201	21,116
売上総利益	23,680	23,323
販売費及び一般管理費	17,047	18,694
営業利益	6,632	4,628
営業外収益		
受取利息	128	127
受取配当金	66	73
持分法による投資利益	257	198
その他	115	130
営業外収益合計	567	530
営業外費用		
支払利息	4	14
売上割引	9	8
為替差損	—	10
自己株式取得費用	0	11
その他	21	7
営業外費用合計	35	52
経常利益	7,165	5,107
特別利益		
固定資産売却益	2	10
投資有価証券売却益	—	84
特別利益合計	2	95
特別損失		
固定資産売却損	1	0
固定資産除却損	17	4
その他	0	—
特別損失合計	19	4
税金等調整前四半期純利益	7,148	5,198
法人税等	2,004	1,751
四半期純利益	5,143	3,446
非支配株主に帰属する四半期純利益	298	170
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,845	3,276

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	5,143	3,446
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	812	△285
為替換算調整勘定	△1,531	△441
退職給付に係る調整額	52	17
持分法適用会社に対する持分相当額	△14	△25
その他の包括利益合計	△681	△735
四半期包括利益	4,462	2,711
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,604	2,569
非支配株主に係る四半期包括利益	△141	142

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	7,148	5,198
減価償却費	1,651	2,118
のれん償却額	—	113
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3	3
賞与引当金の増減額 (△は減少)	225	316
受取利息及び受取配当金	△194	△201
為替差損益 (△は益)	△50	69
持分法による投資損益 (△は益)	△257	△198
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△84
売上債権の増減額 (△は増加)	△358	549
たな卸資産の増減額 (△は増加)	558	△280
仕入債務の増減額 (△は減少)	△207	△86
未払金の増減額 (△は減少)	△1,160	△799
その他	197	163
小計	7,555	6,880
利息及び配当金の受取額	171	201
法人税等の支払額	△1,304	△1,282
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,422	5,800
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,348	△1,586
定期預金の払戻による収入	1,383	1,200
有価証券の取得による支出	△3,499	—
有価証券の売却及び償還による収入	16,800	—
有形固定資産の取得による支出	△1,713	△4,652
無形固定資産の取得による支出	△676	△574
投資有価証券の取得による支出	△4	△4
投資有価証券の売却及び償還による収入	—	184
その他	△88	28
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,851	△5,403
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△105	△42
自己株式の取得による支出	△0	△4,455
リース債務の返済による支出	△2	△73
配当金の支払額	△1,611	△1,403
非支配株主への配当金の支払額	△266	△246
連結の範囲の変更を伴わない 子会社株式の取得による支出	—	△20
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,985	△6,241
現金及び現金同等物に係る換算差額	△296	△46
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	14,991	△5,890
現金及び現金同等物の期首残高	13,640	22,779
現金及び現金同等物の四半期末残高	28,632	16,889

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

当社は、2019年5月14日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,706,800株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が4,453百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が6,281百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当社は当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

当社の在外連結子会社は、第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」を適用しております。

これに伴い、借手のリース取引については、原則としてすべてのリースについて使用権資産およびリース債務を認識するとともに、使用権資産の減価償却費とリース債務に係る支払利息を計上しております。本基準の適用にあたっては、経過措置として認められている本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間の四半期連結貸借対照表において、有形固定資産の「その他(純額)」が989百万円増加、投資その他の資産の「その他」が348百万円減少、流動負債の「その他」が123百万円増加、固定負債の「その他」が192百万円増加、利益剰余金が224百万円増加、非支配株主持分が121百万円増加しております。

なお、この変更による当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	インドネシア	海外その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	28,690	8,555	6,636	43,882	—	43,882
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,436	1,488	203	4,129	△4,129	—
計	31,127	10,043	6,840	48,011	△4,129	43,882
セグメント利益	4,836	601	1,194	6,632	—	6,632

(注) 1. セグメント売上高の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	インドネシア	海外その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	26,648	8,795	8,995	44,439	—	44,439
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,515	1,843	202	4,561	△4,561	—
計	29,164	10,638	9,197	49,000	△4,561	44,439
セグメント利益	3,034	294	1,300	4,628	—	4,628

(注) 1. セグメント売上高の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。